

内田地区循環バス 利用促進を期待

内田地区町会連合会長 浦山 信義

松本バスターミナルと内田区間を路線バスが運行しています。利用状況が少なく赤字路線となつています。同様の路線は中山線・入山辺線・三才山線とあわせ4路線あり、松本市の協議路線(運行補助)として利用促進策を検討中です。



乗車は設定された停留所であり、降車はフリー降車を採用。運行時間については市内病院等受付時間に合うよう配慮した。

特に内田線は利用が極端に少なく、市の都市交通課では、利用促進にむけ今回新たな地域公共交通モデル事業「内田地区循環バス運行」を計画しました。今回の公共交通モデル事業の取り組みにあたり問題点等取りあげてみました。

○内田線の課題

先ず便数が少なく、利用しにくいこと。松本バスターミナルと内田倉村間1日2往復、運行時間も利用しにくい時間帯に設定されている。バスの利用状態をみると「寿台東口」以南の地域に関しては極端に利用が少ない。

○内田地区循環バスの運行計画

新たな移動手段確保を探る

○地区住民の反応

今回の地区循環バス運行にあたり、高齢者へ利用について聞いたところ、「自分で車を運転している」「近所の人に乘せてもらってきている」など、今すぐにバスを必要としない返事が多かった。またバス運行に無関心な人も見受けられた。アンケート調査では、「地区内の病院通院で利用も考え

○地区循環バス利用状況

10月1日から運行が始まり13日間の利用者数延べ22人であり利用者数が少ない状況であった。10月22日開催の内田地区まちかどトークにおいて、松本市建設部長から地区循環バスの利用低迷について将来の運行に厳しい答弁があった。地域の足を守るために各人が再度考えなおしてみることが求められる。

内田地区市政 まちかどトークに参加して

十月二十二日、内田公民館にて行われた「内田地区市政まちかどトーク」に参加しました。内田地区では四年ぶりの開催ということで、今回は六十人あまりが集まりました。

松本市からは就任十一年目となる菅谷昭市長を始め、坪田明男副市長や各部長の総勢十三人が参加くださいました。

菅谷市長の挨拶では内田地区に対して感謝の意が述べられ、内田地区町会連合会浦山会長の挨拶は地域づ



九町会 高山 梢

つれづれ編集記

内田グラウンドの桜の葉が紅く色づき、山里でも秋の深まりを感じられる様になってきました。

先日、新聞の「お巡りさん小熊を「逮捕」」と言う見出しには、つい笑つてしまいました。が、今年は特に山に食べ物が無く困った事態になつていくようです。動物達にもこんな時のための「食宅便」があつたら良いのにと考えてしまいました。異常気象の影響は身近な所まで迫つて来ていると感じました。

又、自然の変化ばかりでは無く、人の心にも異常が起こり始めているのではないのでしょうか？心を病んだ人が増えていくと思えます。薬で人の心を癒す事なんてできないのに、薬が原因の痛々しい事故や事件が毎日の様に起こっています。

そして大きな災害も木曾でありました。

本当に悲しい事はかり続く一年でした。

そんな中、松本山雅FCが念願のJ1昇格を決めたニュースは、とても嬉しい事でした。来季からの夢の舞台での活躍、沢山の明るい話題を期待したいと思えました。

二町会 中島多美子